



# 西北圏域

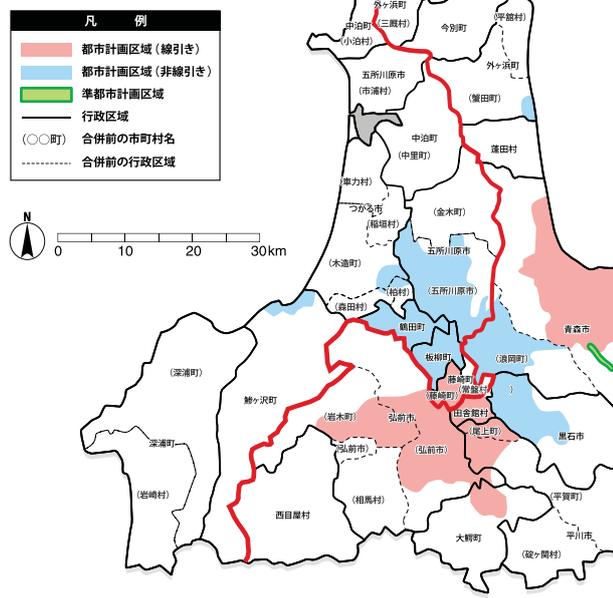
農・林・水・観が連動し、地域と文化を育む広域型の田園都市圏域

〔構成市町村〕 五所川原市・つがる市・鯉ヶ沢町・深浦町・板柳町・鶴田町・中泊町（2市5町）

〔人口〕 171,468人  
青森県全体の11.9%／平成17年国勢調査より

〔面積〕 179,479ha（青森県全体の18.7%）

図 西北圏域の市町村



西北圏域は青森県の西部に位置し、五所川原市、つがる市、鯉ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町の2市5町により構成されています。人口は青森県全体の11.9%、面積は青森県全体の18.7%を占めています。

本圏域には、世界遺産に指定されている白神山地、眺望で名高い岩木山、十二湖、千畳敷海岸などの美しい自然資源が点在しています。

圏域南部では岩木山や白神山地から日本海に注ぐ河川があり、圏域北部には十三湖をはじめとする湖沼や津軽半島中央部から流れる河川があり、生活用水や農業用水として活用されています。

五所川原市市浦地区の十三湊は、中世においては北方交易の拠点として「日本三津七湊」に数えられるほどにぎわっていました。五所川原市の中心部は交通の要衝であったことから圏域有数の商業地として繁栄してきました。

かつては多くの町村が存在していましたが、昭和と平成の大合併より市町村合併が進み、現在の姿になっています。

## I 西北圏域の特徴と課題

### (1) 豊かな自然の恩恵を受けた産業が根付いている圏域

#### 特徴 1

本圏域では、第一次産業への従事者割合が他圏域に比べて高くなっています。

圏域北部のほぼ中央を岩木川が流れ、その兩岸に肥沃な平野部が広がり、優良な穀倉地帯となっています。作付面積、産出額ともに水稲が基幹ですが、北津軽の南部ではりんごの産地が形成されている他、屏風山地帯ではメロン、すいか、ねぎなどの栽培が盛んです。林業では日本三大美林

図 平成18年農業産出額の品目別割合  
〈外周:西北圏域 内周:青森県〉

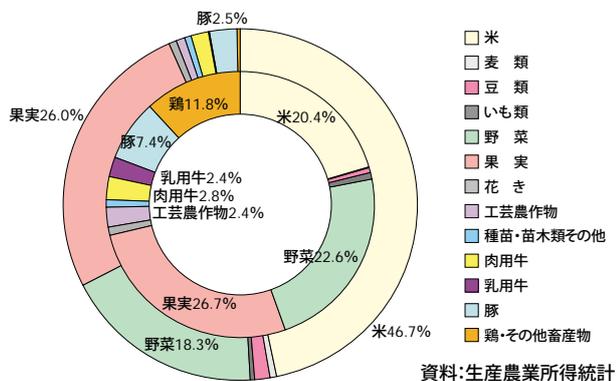
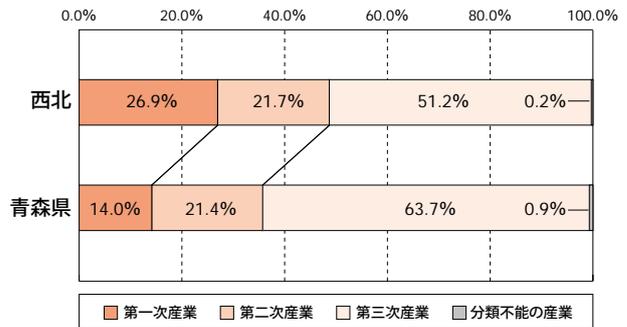


図 平成17年産業大分類別就業人口割合



に挙げられる青森ヒバの産地として知られ、かつては森林鉄道を通じて青森方面へ出荷する一大産業が築かれていました。また、日本海沿いには沖合・沿岸漁業の基地である鱒ヶ沢漁港をはじめ、多くの漁港があります。

一方、本圏域の工業は、五所川原市の青森テクノポリスハイテク工業団地漆川などがありますが、製造品出荷額などは全県の5%にとどまっています。

#### 課題 1

地域の伝統的な基幹産業である農林水産業をいかし、食品加工などの農商工連携、農林水産業の体験型観光など、農林水産物の付加価値を高め、産業の裾野を広げる展開が求められています。

#### 特徴 2

世界自然遺産白神山地や十二湖をはじめとする自然景観の他、五所川原立佞武多などの祭事、太宰治の生家である斜陽館などの有名な観光資

源があり、これらをつなぐJR五能線のリゾート列車やストーブ列車で知られる津軽鉄道の人気と相まって、観光客は増加傾向にあります。

#### 課題 2

本圏域特有の自然や全国的に有名な観光地や祭事をいかした観光振興により、交流人口を増加させ、地域経済を活性化させることが求められています。

#### 特徴 3

主要な物流ルートとして、五所川原市を中心に南北を連絡する国道339号と五所川原広域農道(こめ米ロード)、東西を連絡する国道101号を軸に、道路ネットワークが形成されています。東北縦貫自動車道浪岡インターチェンジと五所川原市を結ぶ津軽自動車道があり、鱒ヶ沢町まで結ばれる予定となっています。

鱒ヶ沢町には七里長浜港があり、日本海に面する特性をい

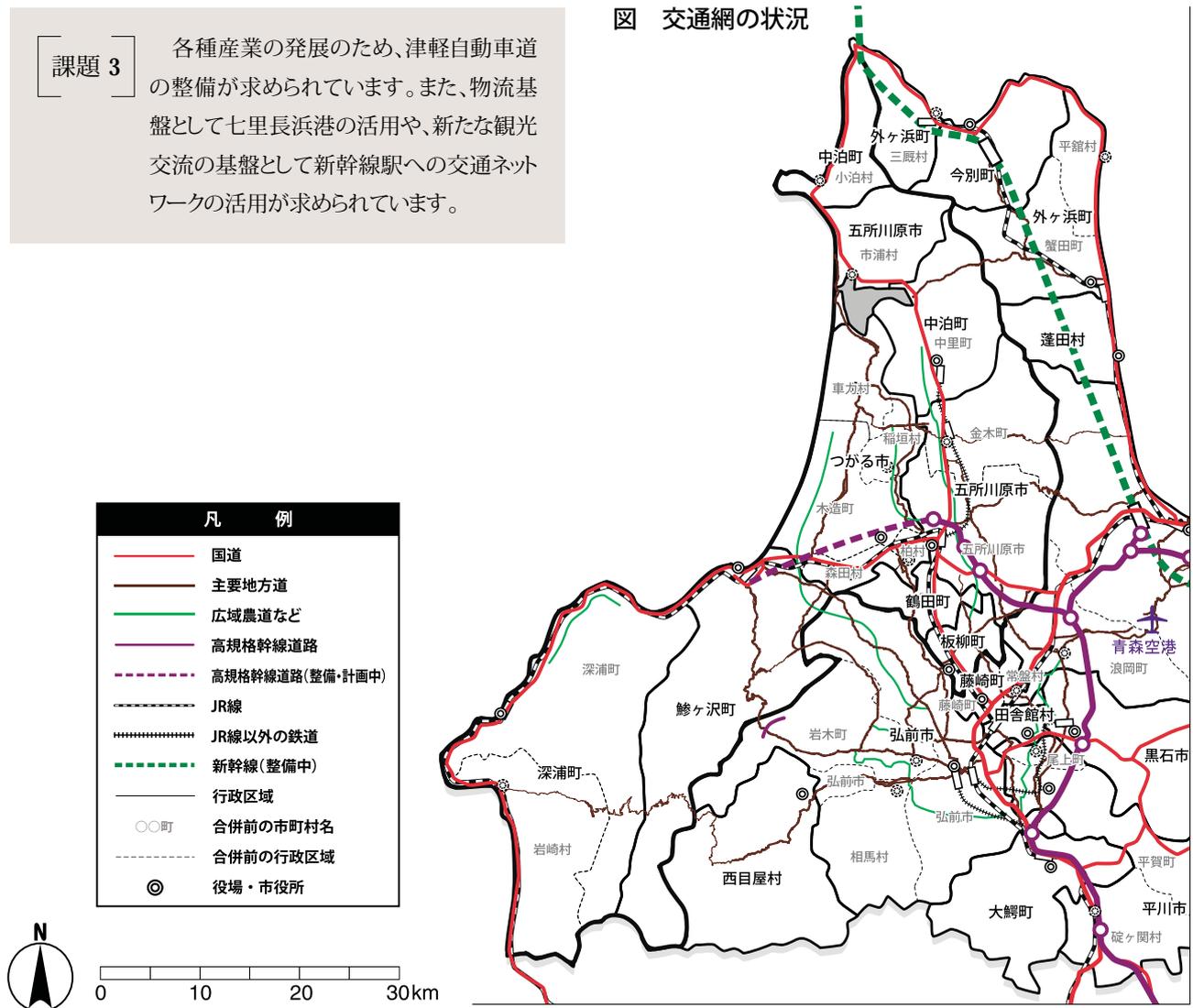
かした津軽地域の物流拠点港としての役割が期待されています。

また、観光資源としても活用されているJR五能線や津軽鉄道がある他、隣接する東青圏域において平成22年12月には東北新幹線新青森駅の開業、さらに5年後には北海道新幹線奥津軽(仮称)駅の開業が予定されており、広域的な周遊観光や交流の活性化が期待されています。

課題 3

各種産業の発展のため、津軽自動車道の整備が求められています。また、物流基盤として七里長浜港の活用や、新たな観光交流の基盤として新幹線駅への交通ネットワークの活用が求められています。

図 交通網の状況



(2) 五所川原市を中心に機能分担をしている圏域

特徴 1

本圏域では、中規模都市である五所川原市を中心に都市的サービスが供給されています。また、つがる市には圏域を越えて集客する大規模商業施設があります。五所川原市の都市機能を超える高次な都市的サービスについては圏域外の都市に依存しており、圏域の中央から北部にかけては青森市、南部では弘前市、南西部では秋田県方面との結びつきも不可欠です。

五所川原を中心に主要な市街地がT字型に分布し、西に向かって木造、鯨ヶ沢、深浦、北に向かって金木と中里、南に向かって鶴田と板柳が連なっています。医療や教育などの日常的な都市的サービスはこれらの市街地によって供給されています。

また、これらの市街地群からの遠隔地となる五所川原市市浦地区や中泊町小泊地区、深浦町岩崎地区では、それぞれ独立した小圏域を形成していますが、主要な市街地までの移動手段が不便なため、都市的サービスを十分に享受できない他、高齢化と人口減少も進んでいます。

また、合併前の各市町村は、各々が独自に総合病院や文化・観光施設などを整備してきたため、非効率な施設配置となっているケースも見受けられました。しかし、本格的な人口減少時代の到来を背景に、圏域全体での医療の再編など、より効率的な都市機能の分担・連携のあり方が検討されはじめています。

課題 1

高齢社会・人口減少社会においても都市的サービス網を維持できるよう、圏域の市町が協力して都市機能配置のあるべき姿を検討し、機能を分担・連携し、ともに育む圏域の形成が求められています。

特徴  
2

五所川原市の中心市街地は、圏域の中心的役割を担っています。しかし、中心市街地の空洞化が進んでおり、活性化策の一つとして五所川原駅西側周辺の土地区画整理事業を推進しています。

西部では、鱒ヶ沢町が行政、医療、教育などの機能を総合的に補完している他、つがる市は五所川原市に次ぐ独立した商圈を有しています。

北部では、金木地区が圏域北部の商業、医療機能、また中里地区が市浦地区や小泊地区といった津軽半島北部の教育機能を補完しています。

五所川原市より南部では、鶴田町が商業、医療機能、板柳町が行政、医療機能といった特徴を有しています。

さらに、深浦町や旧役場があった主要集落では、最寄品を扱う店舗の維持など、日常生活を支える身近な都市機能の維持が必要となっています。

図 五所川原商圈



1次商圈(50%~)  
2次商圈(30~49.9%)  
3次商圈(10~29.9%)  
4次商圈(5~9.9%)

図 つがる商圈

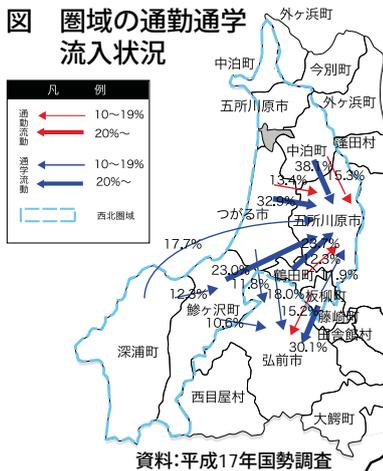


資料：消費購買動向による商圈調査報告書  
(平成18年青森県・青森県商工会議所連合会・青森県商工会連合会)

課題 2

五所川原市の中心市街地の再生が求められています。鱒ヶ沢、つがる、金木、中里、鶴田、板柳といった主要な市街地では、その受益圏の広がり方に応じて、五所川原市を補完する都市機能の維持・強化が求められています。旧役場があった主要集落では、高齢化が進む地域で住民の不便が生じないように、日常生活に不可欠な機能の維持が求められています。

図 圏域の通勤通学流入状況



資料：平成17年国勢調査

図 医療依存度



資料：平成20年青森県保健医療計画

特徴  
3

大規模都市を持たない本圏域では、高度医療などの高次都市機能については他圏域の都市に依存せざるを得ません。したがって、弘前市や青森市、また南西部においては秋田県能代市への交通アクセスが他圏域にも増して重要な意味をもっています。

平野部では国道101号、国道339号、五所川原広域農道(こめ米ロード)などを軸に比較的密な道路網が形成され、マイカーによる連絡が比較的便利である一方、北部・南西部の小泊地区や市浦地区、岩崎地区では交通が不便で、圏域内の移動に要する時間距離が長くなっています。

五所川原市を中心に、鉄道網(JR五能線、津軽鉄道)及びバス路線網が形成されていますが、利用者の減少などに伴う路線網の減少が懸念されています。特に鉄道網から遠い市浦地区以北の漁業集落や、つがる市の北部に広がる農業集落では、最寄りの主要市街地と連絡する公共交通の維持が重要です。

課題 3

他圏域の大規模都市にも依存しながら、複数の市町が機能を互いに分担・連携しあう圏域であることから、圏域の内外を結ぶ津軽自動車道の整備などによる時間距離の短縮の他、高齢化が進む地域でも安心して住み続けられるよう、公共交通網の維持などが求められています。



## II 圏域の将来像

### 農・林・水・観が連動し、地域と文化を育む広域型の田園都市圏域

平野部には肥沃な穀倉地帯、海岸部には天然の良港、山間部には青森ヒバの美林を擁し、古くから第一次産業が盛んに行われてきました。そして農林水産物の交易拠点には数多くの町場生まれ、深い歴史と文化を蓄積した風格ある中小都市群が形成されています。しかし、第一次産業の停滞や高齢化の進展とともに都市活力が低下しており、都市機能や公共交通網などの維持が大きな課題となっています。今後は、新しいタイプの観光と絡め、圏域住民と訪問者がともに地域資源を活用し、交流し、関係自治体が協力しあうことで、都市を長年にわたって維持し育む、農山漁村と都市との結びつきを大切にしたい広域型の田園都市をめざします。

このような将来像を(1)産業、(2)生活、(3)環境の各側面に分け、そのあるべき空間構造を整理すると、以下の(1)～(3)のように描かれます。

#### (1) 豊かな自然の恩恵を受けた6次産業が展開する圏域

農林水産業を軸として様々な産業が連動する「6次産業化」(第一次×第二次×第三次産業)を展開するため、豊かな気候風土をいかした農林水産業の生産基盤を強化するとともに、圏域の様々な地区で多様な体験・滞在型観光や食品加工などが展開される圏域の形成をめざします。

6次産業や広域観光ネットワークを支えるため、津軽自動車道や七里長浜港などの骨格的な交通網及び交通結節点などの整備・活用や、滞在拠点の形成をめざします。

#### (2) 五所川原市を中心に連携した広域型田園都市圏域

五所川原市をはじめとする主要都市の中心市街地や、旧役場があった主要集落など、現在配置されている「働く・住まう・楽しむ場」の利用促進により、都市の存続及び再生を図り、広域の人々がともに育む「広域型の田園都市圏域」の形成をめざします。

「どこでも、いつまでも」快適な生活環境を維持できるよう、地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮しながら、圏域内外の拠点地区や農山漁村を有機的に結び、公共交通の利便性向上を図ります。また、長期に利用できる質の高い都市施設の整備をめざします。

#### (3) 世界に誇る自然環境がいきる持続的な圏域

都市・集落や農地を取り巻く平野の外縁部、また圏域北部・南部に広がる森林や海岸を保全するとともに、農林漁業を柱とした持続可能な経済活動が展開される圏域をめざします。

津軽平野を貫流する岩木川の水質保全を図りながら、緑の拠点や緑の軸がネットワーク化された圏域の形成をめざします。

岩木山を望む沿道景観をはじめ、白神山地、十二湖、十三湖、変化に富んだ海岸線など、圏域を代表する景観の保全をめざします。

## III 都市づくりの方針

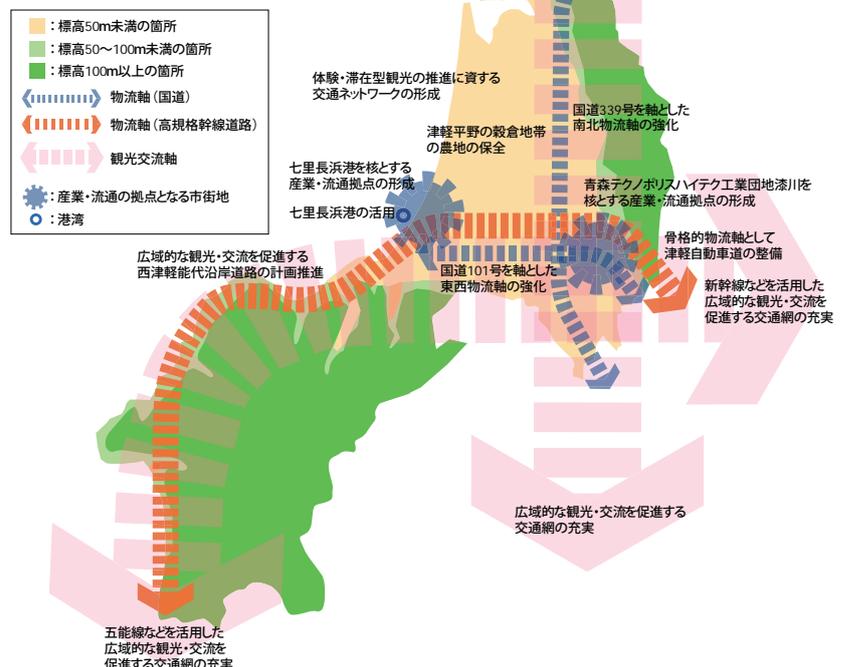
### (1) 「豊かな自然の恩恵を受けた6次産業が展開する圏域」

#### 【土地利用に関する視点】

- 本県を代表する穀倉地帯である平野部の農地の保全
- 七里長浜港や青森テクノポリスハイテク工業団地漆川を核とする産業・流通拠点の形成

#### 【都市施設の整備に関する視点】

- 骨格的な物流軸として、津軽自動車道、東西方向の国道101号、南北方向の国道339号を軸とした広域的な道路網の強化
- 広域的な観光・交流を促進する新青森駅や北海道新幹線奥津軽(仮称)駅、JR五能線、津軽鉄道などを活用した交通ネットワークの形成
- 広域的な観光・交流の促進と地域産業の振興などに資する西津軽能代沿岸道路の計画推進



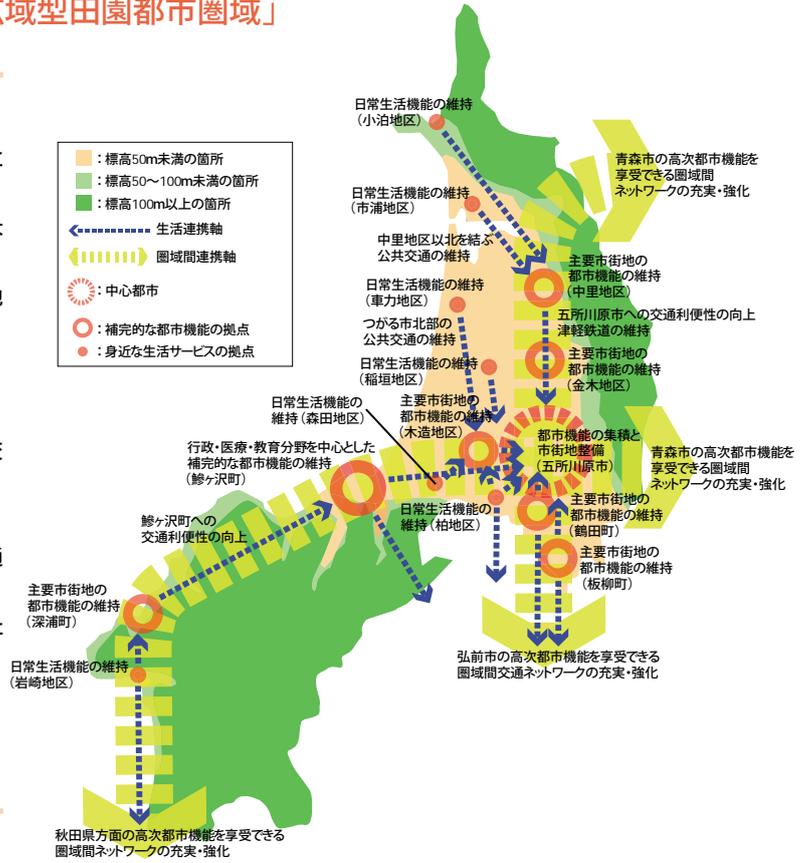
## (2) 「五所川原市を中心に連携した広域型田園都市圏域」

### 【土地利用に関する視点】

- 五所川原市の中心市街地における商業などの活性化に資する市街地の再生
- 鯉ヶ沢町における医療・教育分野を中心とした補完的な都市機能の維持
- 木造、金木、中里、鶴田、板柳、深浦といった主要な市街地における五所川原市を補完する都市機能の維持
- ある程度人口が集積している集落における生活機能の維持

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 青森市や弘前市の高次都市機能を楽しむことができる圏域間交通ネットワークの強化
- 生活の足となるJR五能線や津軽鉄道の維持
- 中里地区以北やつがる市北部の各集落を結ぶ公共交通の維持
- 地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備
- 既存の都市的サービス供給拠点の利用促進による維持
- 市町村間の分担・連携による都市機能の適正な再配置
- 農山漁村と五所川原市をはじめとする各都市との連絡強化



## (3) 「世界に誇る自然環境がいきる持続的な圏域」

### 【土地利用に関する視点】

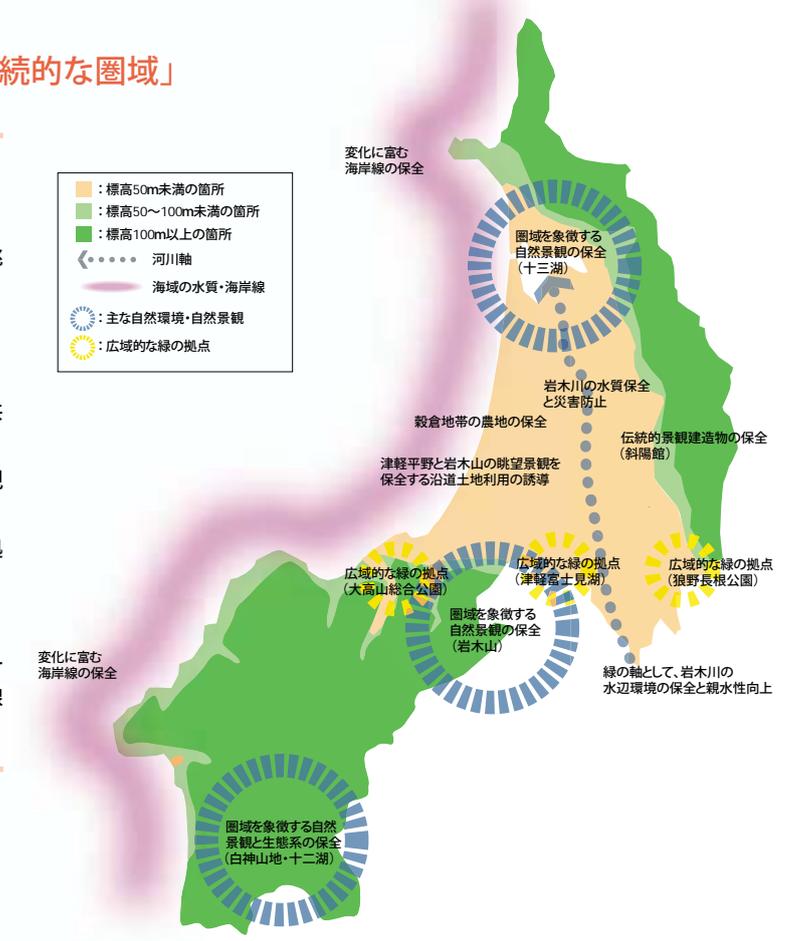
- 平野部に広がる穀倉地帯の農地の保全と活用
- 主な視点場から眺めた、津軽平野と岩木山が織り成す眺望景観を保全する沿道土地利用の規制・誘導
- 斜陽館をはじめ圏域内に残る伝統的景観建造物の保全

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 岩木川の水質保全を図るため、中南圏域と連携した公共下水道などの効率的な整備
- 圏域を貫く緑の軸として、岩木川の水辺環境の保全と親水性の向上
- 丘陵地や溜池などの緑と水辺をいかした広域的な緑の拠点の配置

### 【自然環境の整備または保全に関する視点】

- 圏域を象徴する自然美豊かな景観として、白神山地、十二湖、岩木山、赤石溪流、十三湖、変化に富んだ海岸線などの保全

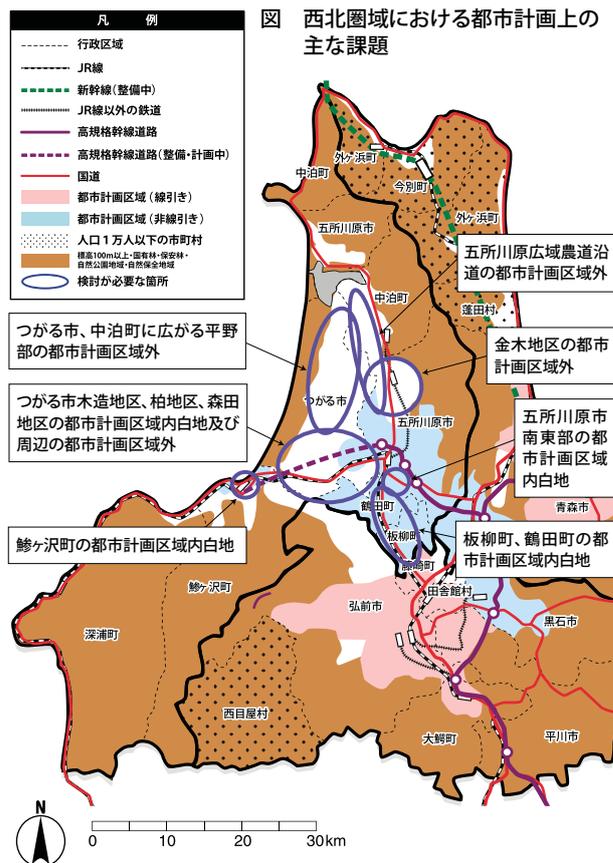


## IV 圏域としての土地利用マネジメントのあり方

### 課題

- ▶ つがる市木造地区、柏地区、森田地区の非線引き都市計画区域白地地域及び周辺の都市計画区域が指定されていない地区では、五所川原市の中心市街地に近く、商業系と住居系を中心とする市街化が進行しているため、農村環境の保全や周辺環境との調和の観点から適切な土地利用のマネジメントが必要です。
- ▶ 都市計画区域外の五所川原市金木地区の中心部にはまとまった市街地があり、周囲を良好な農地に囲まれています。また、斜陽館など歴史的な建造物も残されており、本地区は圏域を代表する観光地として入込客も増えていることから、安全で快適な市街地の形成に向けた土地利用のマネジメントが必要です。
- ▶ 圏域の南北軸である国道339号に並行する広域農道（こめ米ロード）では、金木地区において沿道型店舗の立地がみられますが、利便性の高さからさらなる開発も予想されるため、適切な土地利用マネジメントが必要です。
- ▶ つがる市、中泊町に広がる平野部では、集落内での住宅や農業施設の立地が広域にわたりみられます。本県を代表する穀倉地帯を維持するためにも、将来を見据えた農地及び農村環境の保全が必要です。
- ▶ 五所川原市の市街地南東部の非線引き都市計画区域白地地域では、商業施設の立地や宅地分譲が進んでいるため、農地の保全や周辺環境との調和の観点から適切な土地利用のコントロールが必要です。
- ▶ 鱈ヶ沢、板柳、鶴田の非線引き都市計画区域白地地域では、国道101号及び国道339号のバイパス沿道に商業施設の

立地がみられます。特に鱈ヶ沢バイパスは、今後鱈ヶ沢道路とも接続される予定のため、開発ポテンシャルが高まると予想されます。また、国道339号沿道についても、利便性の高さからさらなる開発も予想されるため、周辺農地や営農環境の保全の観点から、適切な土地利用のコントロールが必要です。



### 検討すべき項目

- つがる市木造地区、柏地区、森田地区の非線引き都市計画区域の白地地域及び周辺の都市計画区域が指定されていない地区では、周辺環境との調和の観点から都市計画区域の拡大を検討するとともに、特定用途制限地域や地区計画の指定などを推進します。
- 五所川原市金木地区は周囲が農地に囲まれた良好な環境の市街地を有しており、都市が備えるべき安全性や快適性・利便性を確保するため、都市計画区域の指定を検討します。
- 五所川原、金木、中里と連なる市街地における通勤・通学などの日常生活圏の一体性を鑑み、一体の都市として合理的な土地利用を誘導するため、五所川原広域農道（こめ米ロード）沿道について都市計画区域の拡大を検討します。
- つがる市、中泊町に広がる平野部の農村においては、圏域

経済の基盤となる肥沃な農地の保全を図るため、社会情勢の変化などに伴う土地需要の変化が予想された場合、都市計画区域の拡大を検討するとともに、農業振興に係る諸制度の活用を推進します。

- 五所川原市の市街地南東部の非線引き都市計画区域白地地域では、農地の保全や周辺環境との調和の観点から、特定用途制限地域や地区計画などによる土地利用コントロールを推進します。
- 国道101号鱈ヶ沢バイパス沿道、及び板柳・鶴田の国道339号バイパス沿道の非線引き都市計画区域の白地地域で、商業施設が立地し、周辺の良好な環境の形成または保持が必要な地区などにおいては、周辺環境との調和の観点から特定用途制限地域の指定などを推進します。